

夏休みが終わり、9月になりました。まだまだ厳しい暑さが続いています。暦の上では秋半ばです。秋といえば食欲の秋、スポーツの秋といろいろありますが、ここはやはり読書の秋ですね！ということで、ここで図書委員お薦めの本を紹介します。今回は、ミステリー特集です。秋の夜長、読書に浸ってみるのはどうでしょうか。



『緋色の研究』 アーサー・コナン・ドイル 著

「血痕の飛び散った空き家の一室で死体が発見されたが、外傷が全く見られない」警視庁からの連絡に、名探偵シャーロック・ホームズとドクター・ワトソンは現場へ急いだ。——皆さんご存じ、名探偵シャーロック・ホームズのシリーズ第一作目。人間の感情が入り混じり、起こってしまった悲劇の事件。終盤、ホームズによってその事件が紐解かれていく過程は、快感です。



『化物語』 西尾維新 著

高校三年生になる間の春休み主人公である阿良々木暦があるヴァンパイアに襲われた時から全ては始まった。

2006年から現在まで連載され、数々の映像化もされた「化物語」シリーズの一作目。作者の西尾維新さんの類いまれなるセンスが光る名作です。皆さんもぜひ手に取って読んでみてください。



『心霊探偵 八雲』 神永学 著

学内で幽霊騒動に巻き込まれた友人の相談をするために小沢晴香は不思議な力を持つ男がいるという「映画同好会」を訪ねた。そこで、彼女を迎えたのは、ひどい寝ぐせに眠そうな目をした青年、斎藤八雲だった。彼は、死者の魂が見えるといった。次々と起こる怪事件心霊探偵斎藤八雲が立ち向かう。

『謎解きはディナーのあとで』 東川篤哉 著

国立署の若くて新米刑事である宝生麗子は、世界に名を響かせるほどのお嬢様。そのお嬢様の上司は、風祭警部という。また、お嬢様の執事である影山は、お嬢様が抱える事件についての相談を受けるのだが、影山は数々の難事件の謎をいとも簡単に解き明かしていく。この小説は、6話の短編ですが、6つの事件を解き明かしていく宝生麗子、風祭警部、影山のやり取りもとても面白く感じます。この小説を読み終えて、本のタイトルの意味を考えると、とても驚かされます。

